

飯綱権現への道「萱田道」

藤 由 美

成田街道の大和田三叉路からやや東寄りに河野電気商会の横を北へ入る道があり、その角に「可やた山いつ奈大権現道」(B03)の道標が立っている。飯綱神社への参詣客を招くような太く力強い文字が印象深い。萱田の飯綱神社は神仏習合の修験の神社で、太田道灌が新川東対岸の米本城を攻撃する陣を張り戦勝祈願をしたという由来がある。

この道標によれば、成田街道から飯綱権現別当寺の長福寺を経て飯綱神社まで、萱田町と萱田を南北に貫く約2キロの道が「権現道」である。

実は「飯綱権現」銘のある道しるべは他に、飯綱神社下の「是より左けミ川道 いつなごんげん宮江三丁」銘の庚申塔(B09)1基しか残っていない。

飯綱権現への道を、地元では「萱田道」という。

飯綱神社からはるか東へ約6キロ、白井城址を望む手繰川西岸の丘の上に「西井野米本萱田道」と彫られた秩父順拝塔(908)がある。小竹にはこの道標のほかにも水神橋などに2基、井野にも台座に「かやた」を示す石仏(902)があった。萱田をめざす道しるべ、これらはいったいどのエリアまで分布しているのだろう。

1 西は寺台からつづく萱田道

「往古有十二寺今成畠云寺台處是也」と「貞福寺縁起」に記された寺台は、吉橋城址の貞福寺を望む木下街道(船橋印西線)の西側の高台で、今はこの「畠」西方に八千代西高校がある。その西高入口三叉路の石塔群の中に、江戸時代の庚申塔や馬頭観音と並んで明治27年(1894)の庚申塔(J07)があった。萱田の銘が確認できる最も西の道標である。

この道標の示す「東かや田」の方向にゆるい坂を下りて木下街道を横断し、寺台バス停の手前から「貞福寺」の看板のある角を左へ入っていく。吉橋公民館向かいの大師講道標(J06)が示す吉橋城南の櫓だった「来福院」跡を通り、元安原医院跡の角に出ると「東萱



三十三年祭で久しぶりに賑う
「権現道」

田城橋佐倉道」の道標（J05）がある。道標に従い、田んぼのあぜを進んで小さな橋を渡ったら、水路に沿って左へ行き、交差した細い舗装道路を右へ曲がる。

この坂道は「おやしき」とよばれた尾崎館址、うっそうとした木々の中に小祠もあり、昼なお暗い道である。旧家の角を道なりに右へ曲がる。この付近を勘子山というそうだ。

この吉橋と尾崎を通る道は中世城館の跡なので地形も道も複雑な起伏や曲折が多い。勘子山の、今は畑の曲がり角で「この道でいいのかしら」と迷っていると、尾崎和楽会が立てた「東萱田城橋二至口」の道標（J04）がちょこっと頭を出していた。

道標の指示に従い（といっても土の中で読めないが）庚申塔群の前の道を東方向に行き、「木戸の外」へ出る。谷を越し麦丸に入ると、古道の面影を残す大きな木の下で道しるべ（J03）が、この道は確かに「萱田道」と教えてくれる。天保6年（1835）の建立、大日如来なのか馬頭観音なのか決めかねるほど、百数十年の風雪にさらされてきた仏さまである。右面には「東かやだみち」左面には「西たかもとミち」と彫られてある。

石仏が静かに行く人を見守るこの道は、吉橋城攻防戦の伝承に名を留める「勝坂」。坂道の南側は大和田新田の工業団地、北側は麦丸の田園地帯。さらにこの道を行くと、左側に庚申塔群があるが、道標銘のある石塔はない。右側は廃ガラスのリサイクル工場。その先の畑の中で、道は二又に分かれる。

二又を、左に行けば東電麦丸変電所脇から城橋に出る。飯綱神社へは右へ。この右の道は「よなもと道」（成田街道の「米本入口」から東北に入り、城橋から米本へ抜ける道）と交差する。古くからの会員の調査によれば、その十字路のカラオケ店角（通称「桜っ株」）に「白井」方面を指示する道標がかつて存在したが、今は埋め



「かやだみち」石仏道標（J03）



吉橋城攻防の伝承の道「勝坂」

られてしまったという。そこからゆりのき台の住宅街路の中にその跡を留める道を行くと、飯綱神社参道に出る。

2 「萱田権現」に集う人々

こうして道標を手がかりに寺台・吉橋・尾崎を通る「萱田道」が復元できたが、この道を飯綱神社まで通ったに違いないひとつの文献資料を伝承館の館長から入手した。それは大正12年(1923) 睦村寺台の「飯綱神社講社規約及講員名簿」である。

「萱田権現講」と称したこの講は、規約によれば「一日二付金壹銭ヲ積立テ」「毎年、正、五、九月の三回」祈祷と神符札の授受に飯綱神社にお参りし、また参拝の際優待サービスの特典があったらしい。たぶん近世のなごりの講社であろうが、木下街道の向こうから年3回「萱田道」を通して飯綱神社に代参している。寺台からは高本、小金へ抜けることができるが、伝承館の館長のお話では、最近でも松戸の方から権現講の一団が飯綱神社に参拝に来ていたとのことである。

もうひとつ、文献を紹介。昭和2年(1927) 飯綱神社が発行した「飯綱神社縁起・大和田町案内図」には「萱田市」について記されている。神社境内では毎月24日、定設の貸し店舗六七十軒、露店はそれ以上設けられ、この地方きっての大市場が開かれる。商人は京浜方面から、顧客は四里四方から集り、さらに8月7日と12月6日には「大市」も開かれるという。

3 北は島田台からの道

飯綱神社から北で「萱田」を示す道しるべは、麦丸の大師講道標(J01)、島田の馬頭観音塔(I04)を経て、「嶋田台嶋田桑納麦丸ヲ経テ萱田大和田ニ至ル」と彫られた島田台の道標(I01)へとつながっている。

この南北ルートを裏付ける文献を探してみると、葛田村信田家「御用留」に明治6年(1873)頃の県庁通達など回状を送る順が書いてあり、必ず「萱田町→萱田→麦丸→桑納→島田」を通して小野田や八木ヶ谷へ順達されていることがわかる。

ただ桑納三叉路の成田山道標(I05)の正面には「桑納□り大和田道」と標されてあるので、大和田～萱田～島田台までこのコースを、桑納・島田台の人は「萱田道」というより「大和田道」といていたのだろう。現在この道をたどると、桑納三叉路は林の中、島田の馬頭観音塔(I04)付近は畑の中のととてもさびしい道だが、かつてこの道は飯綱神社の祭礼に集うだけでなく、南は検見川、北は白井へと抜けて物と人と情報が行き来す

る幹線であったはず。そしてそれはまた現在の国道16号線に相当する大事な道だったにちがいない。

4 萱田は里道の交差点

飯綱神社から東側をのぞむと、新川にかかる城橋の向こうに米本城跡の高台が望める。城橋は、天保6年(1835)の「米本村絵図」にも描かれているように、江戸時代からあった数少ない重要な橋である。

ここ城橋を渡り東は米本・下高野から井野・先崎・小竹を経て萱田道は佐倉へと、西は寺台を経て高本から鎌ヶ谷へと、道しるべにリレーされ成田街道の北側をバイパスのように東西に延びていく。

畑や林の中の心細い道であっても、道は目的地まで迷わず歩けばそれでよい。数丁でも距離が短い里道で用がすむのなら、あえて公用の伝馬が通る官道の成田街道を通る必要はなかったのだろう。

「萱田道」の道しるべは別のルートにもある。成田街道高津入口交差点を北へ入り、八千代霊園の向かい側、工場入口の草むらにある如意輪観音石仏(A12)である。右面には「かやたまち」、左側は下が崖で足場が悪く、また風化がひどいので判読困難であるが、おそらく「よしはしみち」であろう。高津方向から来てここで右折すると、「権現道」に合流するはずだが、八千代中央駅前の開発に行く手をはばまれ、今は再現できない。

村上にも「西かやた船橋」という明治の馬頭観音塔(D04)と、同じく明治の「西かやだ舟ばし」と彫られた月待塔(D08)、さらに「萱田麦丸吉橋方面」と彫られた昭和の道標(D01)、上高野にも「村上萱田道」の馬頭観音塔(E04)がある。これら近代からの道しるべに案内される道は村上橋を通り、今の市民会館向いの「右むらかみ 左かやだ 道」の道標(B04)で「権現道」に出会う道である。この村上橋、かつて「馬洗土橋」と書いて「マレド橋」とよばれたとのこと。小金牧の野馬を幕府に納めるためきれいに洗ったところの橋という意味だそうだ。城橋に比べ小さな橋だったのだろう。

飯綱神社の表と裏で、これら高津と村上からの枝道を合わせた南から「権現道」、南西からの「よなもと道」、西は寺台から来た「萱田道」、北は島田から来た「大和田道」が合流し、城橋を渡って東は佐倉へと続いていく。成田街道からやや奥まった萱田、ここは里道の交差点、そして参詣と市に集う庶民の出会いの場であったにちがいない。